

実体経済の動向

◇生産、出荷ともに根強い上昇を続け、設備投資の増勢は一段と強まる

最近の経済活動は予想以上のテンポで拡大を続けている。昨年秋ぐちに一時鈍化した生産はこのところ再び高いテンポの増勢を示し、また出荷も同様の勢いで増加を続けている。この結果、41年中の生産および出荷の対前年比伸び率は、それぞれ+11.7%、12.0%と前回の景気上昇期である38年中の伸び率(生産+10.1%、出荷+10.5%)を上回る勢いを示している。このような生産の根強い増加を背景に、企業の操業度は上昇し、鉄鋼、自動車、弱電、非鉄、石油化学、合繊など多くの業種ではフル操業ないしこれに近い状態となっており、かかる状況が需要の根強い拡大予測とも相まって企業の設備投資意欲を促す大きな背景となっている。

他方、最近の需要動向をみると、昨年央ごろまで需要拡大の主軸となっていた官公需の増勢は目立って鈍化し、輸出の増勢も鈍っているのに対し、このところ設備投資の増勢が一段と強まり、個人消費も堅調を持続するなど、民需の盛り上がりがかかなり目立ちはじめている。この間の事情をやや詳しくみると、まず民間設備投資は、一般資本財出荷の好調(とくに金属加工機械、化学機械、風水力機械など)や、機械受注(海運を除く民需)が製造業を中心に著増を続け、とくに12月の受注額は過去のピーク(36年7月)を上回るに至ったこと、また建設工事受注、建築着工金額などの関連指標もかなりの増加を示していることなどから推して、このところ増勢を強めつつあるものとみられる。現に最近、鉄鋼、自動車などで当初の計画を大幅に増加させようとする動きが目立っているが、こうした動きはその他の好調業種にも徐々に広がりつつある。また、個人消費も時間外収入の増加、ペースアップおよび年末賞与の増加、雇用

の漸増、豊作による農家所得の増加などを背景に堅調を続けており、百貨店売上高も順調な伸びを示している。この間、民間在庫投資の動きをみると、製品在庫はなお減少を続けているが、流通在庫や原材料在庫については多少とも積増しに向う動きがみられなくもない。

こうした民需の動きに対し、官公需は公共事業関係費支出の頭打ち、官公庁向け建設工事受注の減少などから推して、最近増勢はかなり鈍化しているものとみられる。また輸出も、欧米諸国における経済活動の上伸力が総体としていくぶん弱まりつつあることや、内需の盛り上がりに伴い鉄鋼、非鉄、化学、工作機械などの一部で輸出意欲がやや減退していることなどから、ひとところに比べ増勢は多少鈍化していると思われる。

(生産——再びかなりの増勢)

11月の鉱工業生産(季節変動調整済み)は、10月に前月比+0.5%とやや伸び悩んだあと、+2.1%と再びかなり大幅な増加を示した。これを業種別にみると、一般機械が運搬機械、化学機械などの減少により微減したほかは、各業種ともに増加し、とくに鉄鋼、非鉄、電気機械、精密機械、化学、ゴムはいずれも+3%を越える大幅増加となった。特殊分類別にみると、各財とも軒並み増加した中で、とくに耐久消費財(+6.7%)は輸送機械(軽四輪車、オートバイ)、家庭用電機(卓上扇風機、電気洗たく機、冷蔵庫)、民生用精密機械(カメラ)などの著増を主因に、また生産財(+2.9%)は、銑鉄、粗鋼、伸銅品、銅合金铸件、石油、化学肥料などの著増によりそれぞれ大幅な増加を示したのが目立った。このほか、一般資本財は電動機器、土木建設鉱山機械、繊維機械、風水力機械を中心に+1.6%と根強い増勢を続け、また非耐久消費財は繊維品、紙を中心に、建設資材は鉄構物を中心にそれぞれかなりの増加となった。

なお、12月の生産(速報、季節変動調整済み)は、前月大幅に増加(+2.1%)したあと、+1.5%と引き続き相当の増加を示した。この結果、10~12月の生産は前期比+4.4%(1~3月+3.7%、4

～6月+4.2%、7～9月+5.7%)と高いテンポの増勢を続けた。12月の動きを特殊分類別にみると、非耐久消費財と輸送機械はそれぞれ減少したが、そのほかでは一般資本財の著増がとくに目立ったのをはじめ、各財とも増加した。すなわち、一般資本財は、月々のフレが大きい電力向け大型機械(ボイラーおよび原動機)の著増に加え、土木建設鉱山機械、風水力機械、化学機械などが大幅に増加したため前月比+10.4%と急増した。また建設資材は鉄構物、亜鉛鉄板を中心に、生産財も粗鋼、圧延鋼材などを中心に引き続き根強い増勢を示した。

鉱工業生産の動向

(季節変動調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	41年				41年		
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	10月	11月	12月
鉱工業	181.7	189.3	200.0	208.8	204.8	209.2	212.3
指数							
前期(月)比	3.7	4.2	5.7	4.4	0.5	2.1	1.5
前年同期(月)比	4.2	9.1	14.3	19.2	18.1	19.2	20.2
投資財	2.9	3.2	5.8	5.5	1.6	0.8	4.5
資本財	3.4	2.5	6.3	6.4	2.5	0.4	5.5
同(輸送機械を除く)	3.9	5.4	2.9	8.9	2.5	1.6	10.4
輸送機械	3.0	-1.1	12.1	2.8	-0.5	0.1	-0.9
建設資材	0.8	4.4	5.7	2.4	-1.2	1.0	2.2
消費財	4.1	1.3	3.4	3.5	-0.4	4.0	-0.8
耐久消費財	8.2	2.7	7.5	5.6	-1.6	6.7	0.5
非耐久消費財	1.0	1.6	1.5	2.7	0.6	2.0	-1.4
生産財	4.8	5.5	5.7	4.4	0.4	2.9	1.2

(注) 通産省調べ、12月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

(出荷——増勢続く)

11月の鉱工業出荷(季節変動調整済み)は、前月比+1.9%と10月の大幅上昇(同+2.4%)に引き続きかなりの増勢を示した。当月の動きを業種別にみると、電気機械がやや減少した以外各業種ともに増加しており、とくに非鉄、自動車、精密機械、皮革の伸びが著しい。特殊分類別にみると、耐久消費財が電気冷蔵庫、テレビなど家庭用電機の著減を主因に減少したほかは、各財とも軒並み増加を示した。すなわち、一般資本財は電動機器、産

業用電機、通信機械、土木建設鉱山機械などの著増から前月比+4.0%と前月に引き続き大幅に増加した。またここ一両月増勢が目立っていた資本財輸送機械は乗用車、トラック、産業用車両を中心に相変わらず好伸を続け、建設資材も亜鉛鉄板、鉄構物、セメントなどを中心に着実に増加した。このほか、生産財は圧延鋼材、銑鉄、アルミ圧延品、灯油、紡績糸などを中心にすでに年余にわたって一貫して着実な増勢をみせ、また非耐久消費財も繊維、紙を中心にそれぞれかなりの増加を示した。

なお、12月の出荷(速報、季節変動調整済み)は前月比+1.2%と引き続きかなりの増加となった。この結果、10～12月の出荷は前期比+5.5%(1～3月+3.9%、4～6月+4.8%、7～9月+2.5%)と四半期別では年初来最高の伸びを示した。当月の動きを特殊分類別にみると、一般資本財は生産と同様に、電力向け大型機械(ボイラーおよび原動機)の著増に加え、土木建設鉱山機械、繊維機械、風水力機械、化学機械などが大幅に増加したため急増し、耐久消費財も前月著減した家庭用電機の反動増などから相当増加した。このほか、生産財は鉄鋼、非鉄、石油を中心に根強い増

鉱工業出荷の動向

(季節変動調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	41年				41年		
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	10月	11月	12月
鉱工業	179.3	187.8	192.6	203.2	199.9	203.7	206.1
指数							
前期(月)比	3.9	4.8	2.5	5.5	2.4	1.9	1.2
前年同期(月)比	2.7	11.7	12.3	17.8	15.4	18.4	19.5
投資財	5.9	3.6	-0.6	9.3	4.1	2.9	1.2
資本財	7.6	3.3	-2.0	11.4	5.3	3.1	1.8
同(輸送機械を除く)	2.1	6.1	1.3	9.4	3.6	4.0	8.2
輸送機械	14.8	0.3	-3.8	10.5	3.1	2.4	-2.5
建設資材	1.4	3.9	3.8	3.8	0.7	2.7	-0.2
消費財	1.4	4.2	2.0	3.2	1.8	0.8	1.4
耐久消費財	0.4	11.8	6.1	3.4	1.7	-1.0	4.5
非耐久消費財	2.4	1.9	0.8	3.0	1.3	1.4	0.5
生産財	4.3	6.2	4.8	4.1	1.4	1.7	1.7

(注) 通産省調べ、12月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

加を示し、非耐久消費財も微増したが、反面、ここ数か月来かなりの増加を続けてきた輸送機械、建設資材は減少した。

(在庫——製品在庫は微減、原材料在庫は久方ぶりにかなりの増加)

11月の鉄工業製品在庫(季節変動調整済み)は前月比-0.2%と、10月減少(-1.0%)のあと引き続き微減した。もっとも、最近の動きを3か月移動平均によってならしてみると、8月+0.5%、9月+0.4%、10月+0.2%とほぼ横ばいを続けている。当月の動きを業種別にみると、電気機械、化学などでは増加したが、非鉄、一般機械、輸送機械、窯業、繊維などは出荷好調を映じてかなりの減少を示した。特殊分類別には、前月急減した耐久消費財が家庭用電機、軽四輪車、自転車などを中心に再びかなりの増加となったほかは、各財いずれも減少した。すなわち、資本財輸送機械がトラック、バス、全輪駆動車を中心に前月比-5.2%の大幅減となったのをはじめ、建設資材は亜鉛鉄板、セメントを中心に、一般資本財は耕うん機、標準変圧器、ボイラー・原動機などを中心にそれぞれかなりの減少となった。このほか、生産財は、

非鉄地金、合成樹脂、繊維などの減少が響いて微減し、非耐久消費財も染色整理段階の織物や洋紙の減少などから微減した。

上記のような出荷、在庫の動きを映じて、製品在庫率は109.1、前月比-2.1%と引き続きかなりの低下を示した。これを業種別にみると、電気機械は前月著減の反動もあって大幅な上昇をみたが、非鉄、輸送機械、一般機械、窯業、繊維はかなり低下した。また、特殊分類別には耐久消費財を除けば各財とも低下し、とくに資本財輸送機械、建設資材の大幅低下が目立った。

なお、12月の鉄工業製品在庫(速報、季節変動調整済み)は、前月比-1.1%と引き続きかなりの減少となった。これを特殊分類別にみると、輸送機械(自動二輪車、トラック等)、建設資材(セメント、石綿スレート等)、非耐久消費財はいずれも増加したが、その反面、生産財は工具類、機械部品、原油の著減などから大幅に減少したほか、一般資本財、耐久消費財も若干の減少となった。

このため、11月の鉄工業製品在庫率は106.6、前月比-2.3%とさらに低下し、36年10月以来の低水準となった。

メーカー原材料在庫(季節変動調整済み)は、10月に-0.1%と微減を続けたあと、11月(速報)は

鉄工業製品在庫の動向

(季節変動調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	41年				41年		
	3月	6月	9月	12月	10月	11月	12月
鉄工業	228.9	221.4	224.8	219.8	222.6	222.2	219.8
指数							
前期(月)比	1.4	3.3	1.5	2.2	-1.0	-0.2	-1.1
前年同期(月)比	5.2	0.5	-2.9	2.7	-1.0	-2.2	-2.7
製品在庫率	127.7	116.7	115.0	106.6	111.4	109.1	106.6
業							
投資財	-3.8	4.5	7.3	3.8	-0.8	3.2	0.2
資本財	-3.2	5.0	9.2	4.1	-1.1	2.9	-0.2
同(輸送機械を除く)	-0.1	7.4	3.7	0.9	1.3	1.4	0.7
輸送機械	12.9	1.9	29.3	9.8	-7.0	5.2	2.3
建設資材	-5.2	3.0	3.6	3.9	-0.7	4.0	0.9
消費財	4.5	4.7	-0.2	1.2	-0.9	0.4	-0.8
耐久消費財	12.6	9.8	3.4	-0.1	-3.3	3.9	-0.6
非耐久消費財	-2.7	3.1	2.3	1.8	1.0	-0.4	1.2
生産財	3.3	-1.2	-0.1	-3.8	-1.3	-0.3	-2.3

(注) 通産省調べ、12月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節変動調整済み)

	41年			41年		
	3月	6月	9月	9月	10月	11月
在庫指数	127.7	130.5	131.7	131.7	131.6	134.4
前期(月)末比	3.0	2.2	0.9	-0.8	-0.1	2.1
素原材料	2.6	6.3	-2.2	-2.2	-2.1	3.1
うち輸入分	0.6	8.8	0	-3.1	-2.8	5.5
製品原材料	3.3	0.6	3.7	0.6	2.2	0.9
うち国産分	3.3	0.3	3.5	0.6	2.4	1.0
在庫率指数	74.5	73.2	69.3	69.3	68.7	68.3
素原材料	72.6	72.9	68.2	68.2	65.9	66.7
うち輸入分	69.6	71.2	68.0	68.0	64.9	66.4
製品原材料	79.2	76.6	73.4	73.4	74.1	72.9
うち国産分	78.9	76.2	72.8	72.8	73.7	72.5

(注) 通産省調べ、11月は暫定。
前期(月)末比増減率(%)。

+2.1%と徐々に3月(同+2.3%)以来の大幅増加となった。このような在庫増の動きは、鉄鋼、非鉄、化学、石油などの業種でやや異常ともみられる低水準の在庫に対処して、多少とも積み増そうとする動きが生じたことを映じたものとみられる。もっとも、最近の動きを3ヵ月移動平均によってならしてみると、8月+0.3%、9月-0.3%、10月+0.4%とほぼ横ばいに推移しているところからみて、目下のところこうした原材料補充の動きはそれほど目立ったものとはみられない。当月の動きを業種別にみると、石炭、ゴム、燃料、動力がやや減少を示した反面、鉄鋼、非鉄、化学、石油などはいずれもかなり大幅に増加した。特殊分類別には、国産素原材料はほぼ横ばいに推移したが、輸入素原材料は鉄鉱石、銅鉱石、鉛鉱石、石油、硫化鉱などを中心に前月比+5.5%の著増となり、また国産製品原材料も糸、織物などの繊維品を中心にやや増加した。

この間、原材料消費(季節変動調整済み)は、10月の+0.8%に引き続き、11月(速報)は+2.7%と大幅に増加した。業種別にみると、鉄鋼、化学、石油、非鉄、ゴムが生産の増加を背景にいずれも+3~5%台の大幅増となったほか、繊維、紙・パルプも根強い増勢を示した。特殊分類別では、輸入素原材料が鉄鉱石、非鉄鉱石、原油などを中心に前月比+3.2%の大幅増となったのをはじめ、各財とも軒並み増加した。

以上のような在庫、消費の動きを映じて、原材料在庫率は68.3(前月比-0.6%)とさらに低下した。

次に、販売業者在庫(季節変動調整済み)は、9月に前月比+2.2%とかなりの増加を示したあと、10月も+0.8%と小幅ながら引き続き増加した。これを3ヵ月移動平均によってならしてみると、7月-0.7%、8月+0.5%、9月+0.4%と大勢横ばいのうちにも最近やや増加ぎみとなっている。当月の動きを特殊分類別にみると、素原材料は綿花、スフ綿、生ゴムなどを中心に+11.9%と著増した。他方製品では、1月以来減少の一途をたど

販売業者在庫の推移

(季節変動調整済み)

	41年			41年		
	3月	6月	9月	8月	9月	10月
総合指数	205.9	197.1	200.3	196.0	200.3	202.0
前期(月)末比	4.9	-4.3	1.6	-1.8	2.2	0.8
素原材料	1.2	5.9	6.9	4.2	11.7	11.9
製品	6.0	-5.0	1.0	-3.2	1.2	-0.4

(注) 通産省調べ、前期(月)末比増減率(%)。

ってきた鋼材が著増し、また織物類も増加したが、自動車が乗用車の売行き好伸から大幅に減少し、また石油も寒波到来による灯油の出荷急増から著減したため、製品在庫全体では-0.4%の微減となった。

(設備投資——増勢次第に強まる)

設備投資関連指標の動きをみると、まず一般資本財出荷(季節変動調整済み)は前月比10月+3.6%、11月+4.0%、12月+8.2%とこのところかなり増勢を強めてきている。また、建築着工金額(非住居用、季節変動調整済み)の動きをみても、7~9月は対前期比で+35.9%と著増したあと、10月も7~9月平均比+1.3%と根強い増勢を持続している。

更に、先行指標についてみると、機械受注(海運を除く民需、季節変動調整済み)は、10月に前

需要先別機械受注の推移

(季節変動調整済み、月平均、単位・億円)

	41年			41年		
	4~6月	7~9月	10~12月	10月	11月	12月
民需	718	845	989	679	1,106	1,182
	(-6.0)	(17.7)	(17.0)	(-24.3)	(63.0)	(6.9)
同(除海運)	653	729	895	708	884	1,094
	(0.1)	(11.6)	(22.7)	(-1.5)	(25.0)	(23.7)
製造業	354	346	532	389	494	713
	(14.4)	(-2.2)	(53.8)	(22.6)	(27.0)	(44.2)
非製造業	372	503	462	309	606	472
	(-18.7)	(35.3)	(-8.2)	(-46.5)	(96.4)	(-22.1)
同(除海運)	308	386	365	334	379	383
	(-10.4)	(25.1)	(-5.3)	(-16.1)	(13.4)	(1.1)

(注) 企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

月比-1.5%と減少したあと、11月+25.0%、12月+23.7%と著増を続けており、とくに、12月の受注額は、1,094億円と過去のピーク(36年7月1,000億円)を上回るに至った。最近の動きを業種別にみると、製造業では、11月+27.0%、12月+44.2%(10~12月の前期比は+53.8%)と引き続き著増し、とくに鉄鋼、化学、機械(自動車)の増加が目立った。他方、非製造業(除海運)では、11月+13.4%、12月+1.1%(10~12月の前期比-5.3%)と比較的落ち着きみに推移した。また、建設工事受注(民間産業)でも、7~9月に前年同期比+1.7%とようやく増加に転じた後、機械、化学などを中心に10月+34.7%、11月+28.5%、12月(速報)+59.5%(10~12月+41.6%)と顕著な増加を示している。

以上のような設備投資関連諸指標の動きから推して、設備投資はこのところかなり増勢を強めつつあるものとみられる。

◇商品市況は鉄鋼、繊維など主力商品が急騰

12月から1月前半にかけての商品市況をみると、鉄鋼では条鋼類が大幅に続騰し、鋼板類も厚板を中心に騰勢を強めた。繊維でも、綿糸が年末から年初にかけて急伸し、これに伴ってスフ糸、生糸なども追従する動きをみせるなど、主力商品がそろって堅調を呈した。このほか、非鉄では鉛、亜鉛が年末から年初にかけて急騰したのをはじめ、基礎薬品類、セメント、木材なども引き続き強含みに推移し、また石油(灯油)も持ち直しに転ずるなど、一部の商品(洋紙、合成樹脂、砂糖など)を除き商況の基調は一段と堅調味を増している。

このように、商品市況がここへきて強調を示しているのは、需要が着実な増大を続けているという基本的な事情に加え、鉄鋼や一部非鉄(鉛、亜鉛)、セメントなどにみられるように、需要の増大につれて設備能力面での供給余力がかなり乏しくなり、当面需給ひっ迫が簡単に改まりそうもない状態となっていることもかなり響いているとみられる。もっとも、一部の商品については、この

ような需給地合いの変化もさることながら、多少人气的に押し上げられている面もあるようで、現に、ごく最近、形鋼、生糸、人絹糸などでは多少訂正安の動きをみせている。

以上みてきたように、昨年末から年初にかけての市況高騰が急激であっただけに、今後多少の波乱を招く事態も予想されないではないが、一般的に需要の堅調が続く一方、供給余力がすでに相当縮小しているという事情もあるので、当面の市況は引き続き堅調に推移するのではないと思われる。

次に、商品別の動きをやや詳しくみると、まず鉄鋼では、民間設備投資関連需要を中心とする実需の増大により、供給能力がほぼ限界に近づいたことからここ当分需給緩和を期待することは困難とみられるに至っている。こうした状況を背景に、棒鋼、形鋼など平電炉メーカーの生産ウェイトの高い条鋼類が急騰し、神武景気以来の高値を記録、つれて厚中板や薄板などの鋼板類もかなりの上伸を示した。もっとも、最近では、異常な上げ足をみせた形鋼類に訂正安の動きがみられるに至っている。繊維でも綿糸が急伸し、これに追従して人絹糸、そ毛糸、生糸、綿布などが上伸するなどほぼ全面高商状となった。綿糸の急伸は、生産抑制などによる需給地合いの改善が徐々に進んでいるという事情もさることながら、仕手筋の介入をきっかけとしてこれまで極端に鎮静していた市場人氣が活気を取り戻すに至ったことも少なからず響いているとみられる。

このように、最近の繊維市況の上伸には人气的要素もからんでいる事情もあり、1月央には人絹糸、生糸などでは多少訂正安の動きをみせている。鉛、亜鉛では需要の急速な伸びに対し供給余力の縮小(亜鉛)や炉稼働の不調(鉛)から生産がこれに追い付かず、需給が一段と引き締まって急伸した。もっとも鉛については、このような市況上伸に伴い輸入商談が進められているため、天井感が出はじめている。この間海外相場を映じ11月後半から12月初めにかけて反落した銅は、その後若

干小戻したまま、ほぼ横ばいに推移している。

次に石油では、重油等は、供給過剰から引き続き弱含みに推移したが、灯油は本格的な寒波の到来から荷動きが活発化し、相場も持ち直している。化学でも、硫酸は硫安輸出商談の遅延、合成樹脂は先行きの生産過剰懸念からそれぞれ軟化気配をみせているが、塩素、塩酸をはじめ多くの基礎薬品類は需要の増加を背景に強含みに推移した。セメントでも根強い需要の増加に対し供給余力が次第に乏しくなり、勢い出荷の遅延が目立っており、メーカー筋の価格引上げも一段と浸透をみている。

このように堅調を示す商品が多い中において、紙は需要期明けから洋紙、板紙とも弱含みに転じ、また砂糖もカルテル・アウトサイダーの増産等から需給は引きゆるみぎみとなり、再びシリ安商状となった。

(卸売物価——このところ騰勢目立つ)

12月の本行卸売物価は、前月比 +0.2% と続騰した。これは、非鉄(銅)が海外相場を映じて下落

したものの、鉄鋼、繊維が引き続きかなりの上昇を示したほか、食料品、木材、窯業製品など多くの商品が続騰したためである。なお、非鉄、食料を除いてみると、11月 +0.3%、12月 +0.5% と騰勢は一段と著しい。

ちなみに、41年中の動きをみると、年初から年末までは一貫して上伸歩調をたどった結果、年平均では前年比 +3.8% と31年の +4.4% に次ぐ大幅上昇となった。

更年後の動きをみても、1月上旬には鉄鋼、繊維、木材などの上昇から +0.6% と続騰しており、このところ騰勢がやや強まっているように思われる。

(消費者物価——反発)

12月の消費者物価(東京)は、野菜、鮮魚等食料の値上がりを目因に前月比 +0.8% と反発した。季節商品を除いてみると、10月 +0.2%、11月 +0.1%、12月 +0.4% とひとところに比べ上昇幅はやや小さくなっている。

この結果、41年平均の消費者物価(東京)は、

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウエイト	下降期 (ピーク 38/11) 38/11 →40/7	上昇期 (ボトム 40/7) 40/7 →41/12	最近の推移							
				41年			41年12月			42年1月	
				10月	11月	12月	上旬	中旬	下旬	上旬	
総平均	100.0	- 0.7	+ 5.9	+ 0.6	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.1	保合	保合	保合	+ 0.6
食料品	16.4	- 0.4	+ 6.1	+ 0.4	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.1	+ 0.1	- 0.1	- 0.4	
繊維品	12.9	- 8.0	+ 8.8	- 0.2	+ 0.8	+ 1.1	+ 0.2	+ 0.5	+ 0.3	+ 1.1	
鉄鋼	10.2	- 3.4	+ 6.3	- 0.8	+ 0.4	+ 1.4	+ 0.5	+ 0.6	+ 0.3	+ 1.9	
非鉄金属	4.5	+ 18.4	+ 21.3	+ 7.2	+ 1.3	- 3.8	- 1.1	- 2.0	- 1.2	+ 1.0	
金属製品	3.5	+ 4.1	+ 4.7	+ 1.1	+ 0.1	+ 0.7	+ 0.2	+ 0.6	+ 0.1	+ 0.6	
機械器具	20.2	- 0.6	+ 0.7	- 0.2	- 0.1	保合	保合	保合	- 0.1	保合	
石油・石炭	5.2	+ 1.0	- 2.6	- 0.2	- 0.3	- 0.2	- 0.1	保合	保合	- 0.1	
木材・同製品	6.1	- 2.7	+ 21.8	+ 2.4	+ 0.9	+ 0.3	- 0.1	+ 0.4	+ 0.1	+ 2.4	
窯業製品	3.0	- 0.8	+ 4.1	+ 0.9	+ 0.3	+ 0.3	保合	保合	+ 0.3	+ 0.1	
化学品	7.4	+ 1.9	- 2.0	+ 0.1	保合	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.1	保合	保合	
紙・パルプ	3.3	- 0.3	+ 3.4	+ 0.2	保合	+ 0.1	保合	保合	+ 0.2	保合	
雑品目	7.5	+ 1.1	+ 2.8	- 0.6	- 0.1	+ 0.2	+ 0.3	保合	- 0.1	+ 0.2	
工業製品	79.5	- 1.4	+ 4.6	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.1	保合	保合	+ 0.5	
非工業製品	20.5	+ 1.5	+ 10.5	+ 1.3	+ 0.5	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.1	- 0.1	+ 0.7	
非鉄・食料を除く総平均	79.1	- 1.7	+ 4.9	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.5	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.8	

(注) 本行調べ、35年基準指数による。

前年比 +4.8%となり、40年の +7.2%をかなり下
 回った(ここ数年間では、39年の +4.1%に次いで
 小幅)。もっとも、これは40年に大幅上昇をみた
 季節商品(+15.6%)が、41年には反落(-1.2%)し
 たことがかなり響いており、季節商品を除いてみ
 ると +5.4%(40年は +5.9%)と前年に近い上昇を
 示したことになる。

なお、12月の本行小売物価(東京)は前月比
 +1.6%とかなりの反騰を示したが、41年中平均
 では前年高値を呼んだ野菜の反落もあって +3.0
 %と前年に比べ小幅の上昇にとどまった(40年は
 +5.1%)。

(輸出入物価——輸出物価は続伸、輸入物価は下落)

12月の本行輸出物価は、前月比 +0.4%と続騰
 した。これは、食料が下落したものの、繊維、金
 属などが国内市況の堅調を映じて上伸したため
 である。他方、輸入物価は、前月比 -0.1%と続落

した。これは、繊維、食料が上昇したものの、金
 属、鉱物が下落したことによるものである。以上
 の結果、交易条件は、前月比 +0.5%と引き続き
 改善をみた。

なお、41年中平均では、輸出物価は前年比
 +0.6%、輸入物価は +1.6%となり、交易条件は
 -1.0%の悪化を示した。

◇輸出の季節的增加から国際収支はかなりの黒字

12月の国際収支は、総合で78百万ドルの黒字
 (前月は27百万ドルの赤字)となった。これは、移
 転収支や資本収支が大幅な逆調となったにもか
 わらず、貿易収支が年末における輸出船積みの集
 中など主として季節的要因により著しい好転を示
 した(当月は382百万ドルの黒字、前月は同172百
 万ドル)ためである。当月の貿易収支の黒字幅は
 季節調整後でも約180百万ドルと前2ヵ月(約140
 ~150百万ドル)に比しかなり増大したが、これは
 後記のとおり、輸入がやや一時的とみられる要因
 により減少したことによる面が大きく、したがっ
 て、貿易収支の実勢がここへきて大きく好転した
 とみるわけにはいかない。一方、貿易外収支およ
 び移転収支は、年末における利払の増高、韓国に
 対する清算勘定債権の一部放棄など季節的ないし
 は特殊な要因により、ともに赤字幅を更に拡大し
 た。また、資本収支でも、長期資本は輸出延払い
 信用の増大、円借款供与の増加などから、大幅の
 逆調(133百万ドル、前月106百万ドル)となっ
 た。他方、金融勘定では、外貨準備が前月に引き
 続き増加し、また、為替銀行の資産・負債バラン
 スも、ユーロ・ダラー、借入金などの負債がかなり
 増加したにもかかわらず、年末の関係で買持ち輸
 出手形が激増したため、相当の改善をみた。

12月の輸出は前年同月に比べ +25%と高い伸び
 を示した。しかし、前年同月の水準が海員ストライ
 キによる船積み遅延から著しく低かった点を考
 慮すれば、実勢は季節調整済み計数の動き(9月
 831、10月815、11月857、12月835各百万ドル)
 に明らかなように、高水準ながら増勢鈍化傾向を大
 きく改めるに至っていないとみられる。通関統計

消費者・小売・輸出入物価の推移

(単位・%)

ウ エ イ ト	前 年 比 上 昇 率	最近の推移			最 近 の 年 月 比			
		41年						
		10月	11月	12月				
消 費 者 物 価	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+7.2	+4.8	+0.7	-0.7	+0.8	+4.4
	食料	91.4	+5.9	+5.4	+0.2	+0.1	+0.4	+4.2
	住居	40.9	+9.6	+2.7	+1.4	-2.0	+1.5	+3.1
	光熱	10.7	+3.7	+6.0	+0.3	+0.3	+0.5	+4.3
	被服	4.5	+0.1	+0.2	+0.1	-0.2	+0.1	-0.3
	雑費	13.0	+3.1	+4.3	+0.3	+0.2	+0.1	+3.5
	総合	31.0	+7.2	+8.2	保合	+0.3	+0.5	+7.2
	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+6.6	+5.1	+0.7	-0.8	+0.9	+4.4
	総合	91.4	+5.8	+5.4	+0.4	保合	+0.5	+3.9
	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+7.6	+5.1	+0.8	-0.8	+0.9	+4.4
総合	91.3	+6.6	+5.5	+0.4	保合	+0.5	+3.9	
小売物価 (東京)	総合平均 (生鮮食品 を除く)	100.0	+5.1	+3.0	+1.2	-0.2	+1.6	+4.6
		93.3	+4.2	+3.2	+0.2	+0.4	+0.2	+2.4
輸出入物価 (契約ベース)	輸出		-0.6	+0.6	+0.2	+0.2	+0.4	+2.3
	輸入		-2.5	+1.6	保合	-0.3	-0.1	-0.3
	交易条件		+1.9	-1.0	+0.2	+0.5	+0.5	+2.6

(注) 消費者物価は総理府調べ、40年基準指数。その他は本行調べ、35年基準指数による。

によって商品別の動向をみると、綿・毛織物、鉄鋼などは不勢裡に推移しているが、テレビ、ラジオ、自動車、船舶、合繊織物などが好調を続けており、特に、従来停滞傾向の強かった船舶の好伸が著しい。

先行指標の輸出信用状は、前年の水準がかなり好調であっただけに前年同月比では+9%と低い

国際収支

(単位・百万ドル)

	41年						前年 12月
	4~6月	7~9月	10~12月	10月	11月	12月	
経常収支	64	159	167	137	90	273	168
貿易収支	149	230	257	217	172	382	277
輸出	769	833	921	870	834	1,058	844
輸入	620	603	664	653	662	676	567
貿易外収支	△76	△63	△74	△70	△72	△80	△88
移転収支	△9	△8	△16	△10	△10	△29	△21
長期資本収支	△43	△73	△106	△80	△106	△133	△27
短期資本収支(注1)	△5	△4	△15	△53	14	△5	△30
誤差脱漏	2	△5	△28	△3	△25	△57	△48
総合収支	19	78	17	1	△27	78	63
金融勘定(注2)	19	78	17	1	△27	78	63
外貨準備増減	△2	△20	10	△25	25	30	21
その他	20	98	7	26	△52	48	42

(注) 各期月平均。

1. 金融勘定に属するものを除く。
2. 金融勘定の△印は「外貨準備増減」では資産の減、「その他」では資産の減または負債の増を示す。

輸出入指標(季節調整済み)の推移

(単位・百万ドル)

	国際収支			通関		信用状			輸出	輸入
	輸出	輸入	貿易	輸出	輸入	輸出	輸入	差	認証	承認
41年										
1~3月	773	558	215	788	741	643	328	315	800	687
4~6月	787	598	189	790	763	673	342	331	846	673
7~9月	815	621	194	829	806	678	361	317	858	787
10~12月	836	680	156	852	867	656	378	278	845	838
41年										
8月	787	635	152	792	817	703	363	340	854	775
9月	831	642	189	844	831	671	386	285	860	862
10月	815	661	154	822	853	634	361	273	833	831
11月	857	720	137	872	915	662	386	276	881	885
12月	835	658	177	861	834	671	386	285	821	798

(注) 季節調整はセンサス局法による。各期月平均。

が、季節調整後では前月比+1%と小幅ながら引き続き増加を示し、昨年9月、10月ごろにみられた停滞傾向はこのところやや持直しぎみとなっている。もっとも、主力の米国向けや欧州向けが依然伸び悩み傾向を続けており、また一部の品目(普通鋼、工作機械など)で輸出余力の低下が目立つことなどからみると、輸出の先行きについては必ずしも楽観を許されないように思われる。

一方、12月の輸入は、前年同月比+19%(前月は同+28%)、季節調整後の前月比で-9%と前

輸出信用状の内訳

(単位・百万ドル)

	41年			41年		
	4~6月	7~9月	10~12月	10月	11月	12月
合計	669 (+15)	683 (+14)	664 (+10)	651 (+10)	611 (+10)	731 (+9)
食料品	25 (+12)	29 (-6)	30 (+18)	30 (+27)	30 (+23)	30 (+7)
水産品	16 (+7)	21 (-7)	21 (+19)	22 (+28)	21 (+32)	21 (+1)
繊維製品	117 (+1)	130 (+11)	128 (+6)	120 (-1)	115 (+1)	147 (+16)
綿製品	25 (-13)	29 (-4)	25 (-4)	24 (-8)	23 (-5)	28 (+0)
化学製品	51 (+25)	48 (+11)	48 (+15)	44 (-7)	40 (+23)	60 (+32)
肥料	16 (+66)	13 (+4)	9 (-13)	9 (-42)	6 (+2)	11 (+33)
金属製品	144 (+4)	143 (+3)	134 (+2)	132 (-2)	127 (+14)	143 (-3)
鉄鋼	134 (+5)	131 (+5)	125 (+8)	122 (+4)	118 (+23)	135 (+1)
機械	187 (+31)	193 (+31)	188 (+62)	192 (+28)	166 (+9)	206 (+13)
船舶	9 (+74)	10 (+41)	6 (-16)	6 (-9)	5 (-28)	6 (-9)
自動車	46 (+5)	36 (+16)	43 (+4)	35 (+14)	40 (-2)	53 (+3)
その他	146 (+18)	139 (+16)	137 (+9)	134 (+16)	133 (+11)	144 (+1)
北米	295 (+22)	283 (+20)	279 (+13)	277 (+18)	253 (+17)	305 (+6)
アジア	182 (+9)	208 (+22)	196 (-10)	188 (+11)	180 (+6)	221 (+13)
ヨーロッパ	73 (+12)	69 (-9)	67 (-3)	62 (-12)	64 (+2)	76 (+0)
その他	119 (+8)	122 (+6)	122 (+9)	124 (+6)	114 (+9)	129 (+12)

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%). 各期月平均。

輸入承認品目別内訳

(単位・百万ドル)

	41 年			41 年		
	4~6月	7~9月	10~12月	10月	11月	12月
食料品	143 (+ 15)	136 (+ 17)	147 (+ 10)	145 (+ 41)	127 (- 17)	170 (+ 16)
原燃料	400 (+ 14)	428 (+ 24)	476 (+ 25)	424 (+ 25)	459 (+ 24)	544 (+ 25)
羊毛	36 (+ 30)	33 (+ 27)	34 (- 8)	29 (- 11)	33 (- 6)	38 (- 7)
綿花	27 (- 13)	32 (+ 19)	30 (+ 1)	29 (- 10)	38 (- 4)	53 (+ 14)
鉄鉱石	37 (+ 9)	42 (+ 16)	43 (+ 48)	39 (+ 47)	41 (+ 61)	50 (+ 40)
鉄鋼くず	10 (- 26)	14 (+ 15)	23 (+ 212)	25 (+ 247)	18 (+ 112)	27 (+ 299)
木材	52 (+ 37)	55 (+ 39)	61 (+ 44)	51 (+ 25)	52 (+ 23)	80 (+ 83)
石炭	18 (+ 5)	21 (+ 12)	23 (+ 37)	19 (- 4)	23 (+ 44)	27 (+ 87)
石油	83 (+ 3)	92 (+ 12)	103 (+ 14)	96 (+ 18)	101 (+ 21)	111 (+ 5)
化学製品	42 (+ 2)	43 (+ 16)	49 (+ 21)	47 (+ 35)	47 (+ 25)	52 (+ 8)
機械	57 (- 25)	59 (+ 20)	71 (+ 37)	57 (+ 37)	69 (+ 17)	86 (+ 58)
鉄鋼	10 (- 27)	16 (+ 52)	26 (+ 235)	18 (+ 112)	25 (+ 192)	34 (+ 472)
その他	65 (+ 19)	61 (+ 13)	74 (+ 59)	72 (+ 62)	68 (+ 37)	82 (+ 79)
合計	717 (+ 8)	743 (+ 21)	842 (+ 27)	764 (+ 34)	794 (+ 17)	969 (+ 31)

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%)。各期月平均。

月に比べて水準はかなり低下した。通関統計で商品別の動きをみると、鉄鋼くず、鉄鉱石、石炭、銑鉄、非鉄金属、木材など原材料がこれまでと同様根強い増勢を続けているが、食料は前月著増の反動などから小麦、砂糖などを中心に目立って減少した。こうした食料輸入の不規則な動きから前月の輸入は実勢よりかなり高目に、当月は逆に低目になったとみられる。

先行指標面では、前年同月比で輸入信用状は+24%、輸入承認は+31%と増勢が顕著であるが、季節調整後では、ここ3~4か月は大勢として高水準横ばいを続けている。また、原材料消費の急増からかなり減少していたメーカー段階の輸入原材料在庫は、昨秋以降の高水準の輸入により、11月には徐々に増加に転じており、輸入素原材料在庫率もその水準は依然低いものの、いくぶん回復する動きをみせている。